



TITLE:

<研究論文>スウェーデンにおける 高校選択:進路選択ガイドの検討よ り

AUTHOR(S):

本所, 恵

CITATION:

本所, 恵. <研究論文>スウェーデンにおける高校選択:進路選択ガイド
の検討より. 教育方法の探究 2008, 11: 33-40

ISSUE DATE:

2008-03-31

URL:

<https://doi.org/10.14989/190347>

RIGHT:

スウェーデンにおける高校選択

——進路選択ガイドの検討より——

本 所 恵

1. はじめに

本稿では、スウェーデンにおける高校選択をとりあげる。

スウェーデンでは、7歳から9年間の義務教育の後、20歳未満のすべての若者は3年間の後期中等教育を受ける権利を保障されている。その教育は、総合制高校(gymnasieskolan：以下「高校」とする)あるいは高等養護学校(gymnasiesärskolan)で行われる。高校は、卒業後に大学進学を希望する生徒も、就職を希望する生徒も両方を受け入れており、現在、義務教育修了者の約98%が直接進学している。

しかしながら、高校では全員に対して同じ内容の教育が行われているわけではない。スウェーデンの高校には専門分野の異なる17プログラムが設定されており、生徒は入学時に1つのプログラムを選択する。ここで選択したプログラムの専門分野に関する教育は、各生徒の高校3年間のカリキュラムの半分以上を占める。このようにスウェーデンでは、すべての者に後期中等教育を保障し、進路による学校種の区分を否定しながらも、プログラム分岐を設定し、専門教育の多様性を確保しているのである。

生徒の側から見れば、高校入学時の選択が高校卒業後の進路を固定的に決定することはないといわれるものの、プログラム選択は将来に影響する大きな意味を持っている。ここで、高校入学の際に生徒がどのような方法で各プログラムに分かれてゆくのが問題になる。プログラム選択の際にはどのようなガイダンスが行われ、生徒はどのような理由からプログラムを選び、進路を決定してゆくのだろうか。

スウェーデンにおいて進路選択の問題は、主に統計による社会学的研究において扱われてきた。1940年代後半から、特定の年に生まれた全国の同一年齢層を追

跡調査し、進路傾向や世代間の変化を分析する大規模なコーホート分析研究が実施されてきた。それは、学校の選抜・配分機能に焦点をあてるものであり、日本にも一部が紹介されている¹⁾。高校選択に関しては、社会階層や性別による進路の偏りがあることが指摘されており、現在もなお、プログラム選択に親の学歴や職業が影響していることが明らかにされている²⁾。

このような進路選択の偏りをなくすために、教育実践レベルの取り組みとしては、生徒への情報提供と個別相談が重視されてきた。これらの活動は、「学習と職業のガイダンス(studie- och yrkesvägledning)」と呼ばれ、学校内に配置される専門スタッフによって担われてきた。とくに、社会背景によって生徒が得る情報の種類や量に差が出やすいことから、全ての生徒に正しい情報を十分に与えることが重視されてきた。

それでは生徒は、具体的にはどのような情報を受け取り、高校選択の際にどのような点を考慮するように求められているのだろうか。高校選択の際に生徒や保護者が考慮する点については、大熊ニーストロームが、アンケート調査とインターネット上の学校案内を基に分析している³⁾。そこでは、日本では卒業後の進路先が注目されることに比べて、スウェーデンでは教員紹介、専門教科やカリキュラム、図書館や保健室といった在学中の生活環境が注目されていることが明らかにされている。この分析は、生徒が高校に何を求めているかとともに、学校が自己のアピールポイントをどこに置いているかを指摘するものとして興味深い。

ただしここで、高校選択をめぐるのは、学校制度や高校入学のシステム、進路指導の方法が国によって異なることを考慮に入れる必要がある。高校入学は、通学する学校の選択と同時に、学習する専門分野の選択が含まれる。高校入学時の進路選択は、このような複

数のレベルを考慮しなければならないのである。

よって本稿では、スウェーデンの高校入学システムを踏まえたうえで、高校入学の際のガイダンスを検討する。検討対象としては、高校入学時の進路選択にあたって利用されている高校選択ガイドを取り上げる。同様のガイドブックは複数種類あるが、ここでは、全国で広く用いられているガイドブックを検討対象とした。論文の構成としては、第1章にてスウェーデンの高校入学のシステムおよび高校選択のためのガイダンスについて整理する。第2章では、ガイドブックの中身を検討する。この検討を通して、選抜のない学校制度を目指すスウェーデンにおいて、どのような進路選択ガイダンスが行われているのかを明らかにしたい。

2. スウェーデンの高校入学

(1) スウェーデンの高校入学システム

①万人のための学校

スウェーデンでは、20世紀後半の教育改革によって、中央集権的に単一型の学校制度が整えられてきた。1980年代末から規制緩和と地方分権化がすすみ、1994年以降、初等・中等教育は、全国に290ある「コミュニティ」と呼ばれる地方自治体の管轄である。

中央政府は、学校教育法や各種学校規則、学校教育の価値観と目標を定める「教育プラン」によって、公教育の全体的なシステムと教育の方向性を規定している。これらに沿って各コミュニティが地域の教育目標と計画を定め、教育を提供する責任を負う。予算配分や人事やカリキュラム編成など、具体的な教育実践については各学校の裁量が大きく認められているが、その実施・監督の責任はコミュニティが担っているのである。

学習者にとって、高校教育は義務ではないが、コミュニティは20歳以下のすべての居住者に3年後期の中等教育を保障する義務を負っている。ただし、高校に入学するためには、学校教育法で定められている全国共通の入学要件がある。その要件とは、義務教育を行う基礎学校修了時に、スウェーデン語⁴・英語・数学の3教科で「合格」を認められることである⁵。これを満たさない生徒については、「個人プログラム」という補償プログラムが用意される。個人プログラムでは、これら3教科を、高校に入学できる「合格」レベルまで学ぶ。その後に生徒は、通常の高校に正式に入ること

になる。

②17プログラムによる専門分野の選択

高校入学に際して、生徒は自分の学習する専門分野と通学する学校を選択する。コミュニティによって高校の設置数は大きく異なり、都心には20以上の高校をもつコミュニティがある一方で、地方には、学区内に1校しか高校を持たないコミュニティも多くある。コミュニティ内にある高校数の全国平均は、2校にとどまる⁶。

このように、コミュニティ内にある高校の数が限られていることもあり、高校入学にあたっては、通学する高校の選択よりもむしろ学習する専門分野の選択に焦点が当てられる。その選択は、「プログラム」の選択として提示される。生徒は、表1に掲げた17種類の全国共通プログラムから1つのプログラムを選択し、選択したプログラムの専門教育を高校で受けるのである。

表1 全国共通プログラム

児童・レクリエーション／建設／電子工学／エネルギー／芸術／輸送機器／ビジネス・経営／手工業／ホテル・レストラン／工業／食品／メディア／自然資源活用／保健介護／自然科学＊／社会科学＊／科学技術＊
--

各コミュニティは、基礎学校を修了した生徒に対して、この17つのプログラムを現実的に選択可能な選択肢として提供する義務を負っている。

学校数が多い都心部のコミュニティでは、複数の学校に同じプログラムが設置されているため、プログラム選択の上に学校の選択が必要になる。一方で、学校数が少ない地域では、プログラムを選択すれば自動的に学校が決まる。また、希望するプログラムが居住するコミュニティ内に設置されていない場合もある。そのような場合は、生徒は近隣のコミュニティの高校に通学し、居住しているコミュニティが学費を負担する⁷。

③入学先の決定

プログラム選択と学校選択とを含む入学先の決定は、各コミュニティの高校入学センターを通じて行われる。基本的には各学校やプログラム単独での入学者募集・選抜は行われないのである。なお、これには公立学校も私立学校も含まれる。スウェーデンの私立学校は、公立学校と同様に、生徒数に応じてコミュニティからの予算を受けて運営されており、授業料などの点におい

て公立学校と大差ないためである。

ただし、高校入学に関する手続きや広報については、複数のコミュニケーションを合わせたレーンという単位で行われる場合が多い。最近では、IT化によって希望の受け付けや入学先の調整が簡単になったことから、広域で一括した高校入学手続きが可能になっている⁸。24のコミュニケーションを含むストックホルムレーンでは、2004年から全域でインターネットによる入学手続きが開始され、2007年からは、レーン内にある75校の高校の入学業務を一括して取り扱う高校入学センターが設置されている。

入学先の決定は、基礎学校最終学年の後期が始まる1月から卒業する6月までの半年間をかけて行われる。レーンによって細かい期日は異なるが、大まかなプロセスは共通している。ストックホルムの2008/09年度入学者用の入学先決定のプロセスは、表2のようになっている⁹。

表2 高校入学先決定のプロセス

①	1/11~	各家庭に高校入学希望登録票が送付される
②	2/15	高校入学希望登録しめきり
③	3月	芸術・語学プログラムの推薦書提出
④	4/22~	基礎学校の第9学年前期の成績をもとに、入学先の仮決定。5月半ばまでは希望変更が可能
⑤	5/11~ 5/31	芸術・語学プログラムへの希望変更者の推薦書提出
⑥	6月	基礎学校第9学年後期の成績あるいは個人プログラムの成績が、高校入学センターに送付される
⑦	6/26	入学先の最終決定
⑧	7/18~	入学手続きしめきり
	8月	予備調整期間
⑨	8月末	新学期スタート

ストックホルム2008年高校選択ガイド *Programguiden* p.3、
高校入学センターウェブページより著者が作成

ここでの大きな特徴は、入学先の決定が、4月の仮決定(④)と6月末の最終決定(⑦)という二度設けられていることである。1~2月の第一回目の希望調査に沿って4月に入学予定先が仮決定される。この結果を受けて、生徒はもう一度希望の変更ができるのである。そしてこの訂正を踏まえて、最終的な入学先の決

定が6月末に行われる。

このような入学先の調整は、志願者数が定員数を上回る学校やプログラムがあるために行われる。志願者過多の場合、選抜が行われることになる。私立学校を含めて多くの学校があるストックホルムでは、学校間での生徒獲得競争も生徒間競争も激しい。

選抜に関して、具体的な対応の詳細はコミュニケーションやレーンによって異なるが、選抜のための試験は行われず、基礎学校の成績を基に選抜が行われるという点は共通している。基礎学校の成績は、第8学年と第9学年の毎学期、各教科に対し、全国共通の評価基準に基づいて「優」「良」「可」の3段階でつけられる。ストックホルムでは、その生徒がとった成績の中から最もよい16つの成績を選び、優20点、良15点、可10点と換算して合計点を比べて選抜が行われている。

第一回目の入学先の仮決定は第9学年の前期の成績のみで行われ、本決定は最終成績を加味して行われる。よって、仮決定で希望が通らなかった生徒は、最終成績でよい成績を取るよう努力するか、希望を変更する。

以上のように、高校入学においては、すべての生徒が教育を受ける権利を保障されている。そこではプログラムの区分として多様な専門分野が設定されており、この専門分野の選択は、二段階の希望調査を経て、各生徒の希望に沿うように行われている。

(2) 学習と職業のガイダンス

①概要

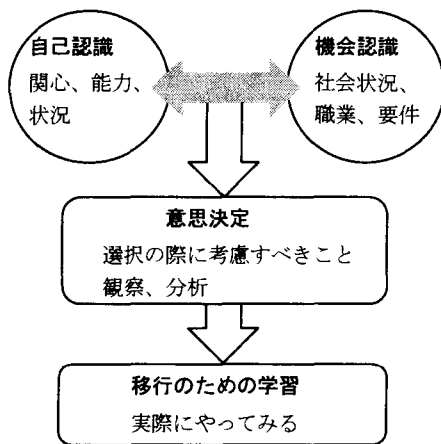
高校選択に先立って、基礎学校では「学習と職業のガイダンス」が行われる。学習と職業のガイダンスは、高校選択のみならず、あらゆる学校段階における進路ガイダンス、学校内の教科選択へのアドバイス、職業生活へのオリエンテーション、さらには企業におけるキャリアアップをも含むこむ活動で、社会的に広く認知されている。

学習と職業のガイダンスを担うのは、大学で3年かけて養成される専門員である。現在、基礎学校には、学習と職業のガイダンスの専門員を配置する義務はない。よって非常勤講師が多いが、基礎学校では生徒約526人に1人の割合で配置されている。ただし現状では、基礎学校に勤務している専門員の内、資格保有者は約62%にとどまっている¹⁰。

②理論的基盤

学習と職業のガイダンスに当たっては、イギリスのローとワッツの理論を下敷きにした「4 ステップモデル」が広く理論的基盤とされている¹¹。それは、第1に生徒が自分のことをよく知り（自己認識）、第2に社会の状況と選択肢のことをよく知り（機会認識）、第3に、以上の2つを統合して決断を下し（意思決定）、第4に実行してゆく（移行のための学習）というプロセスである（図1）。

図1 4ステップモデル



このように、学習と職業のガイダンスでは、生徒に自己と社会を両方認識させ、進路選択を行わせる。その活動の柱は、認識を深めるための情報提供と個別またはグループでの相談である。2000年に行われたアンケート調査では、学習と職業のガイダンスで与えられた情報が、志望校からの情報、知人や卒業生からの情報に並んで、生徒の進路選択に大きな影響を与えたことが示されている¹²。

③高校選択のためのガイドブック

高校選択の際の情報提供において、大きな役割を果たしてきたのが高校選択ガイドブックである。進学者と就職者を両方対象とする高校が全国に設置された1971年以来、中央当局である学校監督庁（現在の学校庁）が高校選択のためのガイドブックを発行していた。このガイドブックには、全国版、地域版、生徒用ワークブックの3分冊があり、全国版は高校システムの全

体像を示し、地域版は具体的な選択肢が記されていた。そしてワークブックを用いて、社会の動向や学習した内容を振り返る契機が与えられていた。

中央当局からのガイドブックは、1994年に初等・中等教育の管轄が中央当局からコミューンに移った際に発行が停止された。以後は、コミューンや民間企業が高校選択のためのガイドブックを作成している。

最近では、インターネットによる情報提供が拡大しており、中央当局である学校庁も、独自に進路ガイダンスのためのウェブサイトを作成している¹³。このように多様な情報源から、高校入学時の選択肢にとどまらない情報が提供され、ガイダンスに活用されているのである。

3. 進路選択ガイド

（1）概要

本章では、高校選択のガイダンスにおいて生徒に渡されるガイドブックを具体的に検討する。とりあげるのは、全国の基礎学校7～9年生向けに、民間企業の労働市場情報株式会社(Information Arbetsmarknad AB)が発行している *FRAMTIDSVALET* である。このガイドブックは、毎年21万部発行されており、スウェーデン全国の90%の基礎学校と96%の高校でとりあげられている¹⁴。

一冊のガイドブックの中に、全国共通の部分と、全国を21に分けた地域ごとに異なる部分とが含まれている。

全国共通の部分は96頁で、次の4項目からなる。

- 1) 進路選択の際のアドバイス (11頁)
- 2) 高校の専門分野紹介 (11頁)
- 3) 高校卒業後の教育機関の紹介 (6頁)
- 4) 学校・企業・業界団体・国家機構の紹介 (66頁)

各地域の部分には、その地域にある企業や学校の情報が載っている。セーデルマンランドレーン版では32頁ある。

以上のような冊子構成から、ここでは二つの特徴を指摘しておきたい。第一に、高校入学時の選択肢が、高校卒業後の進路へのつながりを意識しながら提示されていることである。1) 進路選択の際のアドバイスから始まり、2) 高校で学ぶ専門分野の紹介に続いて、3) 高校卒業後の教育機関や 4) 社会の業界団体が紹介さ

れている。広い社会の多様性を意識しながら、高校選択によって自分の進む方向性を決めてゆくというメッセージが読み取れる。

第二に、実在している団体の活動を通して社会の全体像を見せていることである。例えば 4) では、医療企業連合や塗装関連業者会といった各種の職業団体がそれぞれの分野の活動を紹介している。業界団体を紹介することで、現実に関能している状態で社会の様々な分野を全体的に提示しているのである。

(2) 進路選択のアドバイス

では、具体的に生徒が選ぶ選択肢は、どのような文脈に位置づけられて提示されているのだろうか。本節では、進路選択ガイドの導入部分である 1) 進路選択に際してのアドバイス部分を中心に、ガイドブックの内容を具体的に検討する。進路選択に際してのアドバイスは 11 頁あり、次のような内容が含まれている。

- 1) 将来の労働市場の動向
- 2) 起業すること、企業を運営してゆくこと
- 3) 職業実習 PRAO
- 4) 君の経済
- 5) 仕事の探し方
- 6) 夏休みのアルバイト
- 7) 興味・関心テスト
- 8) 職業に関するワーク

労働市場全体の記述から始まって、企業、職業、経済の話を取り上げている。前述の「4 ステップモデル」に照らしてみれば、生徒の自己認識よりも社会の機会認識を広げ深めることに重点を置いているといえる。

以下、各項目の記述内容を抜粋しながら、より詳細に検討する。

1) 将来の労働市場の動向では、スウェーデンの経済及び労働市場の動向について、国際的な視野からリアルな現状把握と将来展望が描かれている。

<景気は上向き>

スウェーデン経済は成長期にある。近年、国際的にはかなり好景気で、スウェーデンクローネは高くなっている。

<求人数の増加>

2007 年雇用は拡大し、求人数は約 5 万人にのぼる。サービス業、とくに民間企業で拡大。2008/09 年は、

雇用は停滞すると予想されている。

<失業率の低下>

失業率は下がっており、2007 年は 4.5% を下回る。

2007~09 年、以下のような産業分野で教育を受けた労働力が不足すると見込まれている。これらはとくに、定年退職者の多くなる職業、教育を受けた新卒者が少ない職業である。

- ・ 建築・建設分野
- ・ 技術・コンピュータ関係
- ・ 輸送等の分野における民間企業の職業
- ・ 医療・教育分野：公立大学内の職業

<全国／一地域で、人材不足の職業>

建設業／車整備士／建築士／保育士／医者／看護師／就学前教育教師／高校教師・職業教師 等

<全国／一部地域で、余剰労働力のある職業>

ベビーシッター／販売員／受付係／警備士 等

失業率 4.5%、求人数 5 万人といった数値を明示し、最新のデータを使いながら、客観性を重視して、経済の状況、労働市場の動向を伝えている。また、人材不足の職業分野を明確に例示して紹介している。社会の状況を知る際には、冷静でリアルな現状把握が重視されているのである。

続く 2) 起業に関する項目では、社会に多く在る「企業」に目を向けさせている。

現在、スウェーデンには数十万を越える企業がある。なぜ人は企業をつくるのか？起業すると、様々な側面から計画を練って企業を管理・運営する必要があるが、雇われるより自由に働ける。

起業すると、企業の経済面など、雇われるのとはまったく違う責任を持つことになる。

起業に際してのアドバイスは、その分野のことをとにかくよく知ること。他の企業がどのような活動をしているのか、製品は、労働者は？その分野特有の法律はないか？

新しい企業を起こすにあたって、起業プロセスは順序良く計画しておく必要がある。

<起業のプロセス>

- * 計画して、起業についての情報を得よう
- * 法律や資金のアドバイスを得よう
- * ローンを探し、企業を登録し、保険の手続きをし、安全管理に気を配ろう
- * 企業を運営しよう：雇用、輸出入、保健等

起業が皆に合うわけではない。性格や好みによる。試すこともできるし、大学で経営を学ぶことも

できる。

起業の可能性を伝えることで、企業の存在を身近に感じさせ、学校から社会への移行を円滑にするという役割も担っているだろう。また、社会において企業が重要であることや、ひとつの企業がどんな働きをしているかを認識させている。

以上の2項目からは、社会の現状を的確に捉え、現実のものとして捉えさせようという意図が読み取れる。続いて、このような社会の一員として生徒自身が将来職業に就くことを具体的にイメージさせる項目が並ぶ。

3) PRAO (Praktisk Arbetslivsorientering : 現実の職業生活へのオリエンテーション) は、生徒全員を対象とする職業実習である。法的規定はないが、多くの基礎学校でおこなわれている。ガイドブックには、社会の様子を見ることへの動機づけが書かれている。

4) 経済面については、やがて自立することを前提に、収入を得ることや、納税の義務についても触れられている。スウェーデンでは高校在学中の18歳で大人になり、卒業と同時に経済面で自立する人が多いのである。

未成年の内は親が面倒をみってくれる。でもいつまでもではない。16歳になって、休日や休暇中にアルバイトをしたら、自分のお金を使うことができる。

高校を卒業したら両親は君の面倒を見る義務はない。君が仕事を心得、それでも親と住んでいたら、家賃を払うのがフェアだ。これについて詳しくは、次のホームページをみてみよう。

www.konsumentverket.se

<「黒い」お金と「白い」お金>

「黒い」お金とは、税申告をしなかった収入のこと。例えば、次のような不利益がある。

- ・雇用契約なし
 - ・安定した収入なし（ローン、住居、電話契約が困難）
 - ・保障なし（怪我の際、全額自分で払う）
 - ・職業履歴が残らない
- 何より、違法だ。

「白い」お金を得る職業に就けば…

- ・社会保障が受けられる
- ・労働環境が法によって守られる
- ・残業やリストラの際も賃金が保証される
- ・ローン、住居、電話契約が可能な安定収入がある

ここでは、さらに詳細な情報を得るためのホームページのリンクが記されていることにも着目しておきたい。いざと言うときに必要な情報にアクセスできるよ

うになっているのである。

続く 5) 仕事の探し方では、具体的な手続きやアドバイスが載っている。

<仕事を探す>

知人からの紹介が最も一般的な方法だ。次に多いのは、個人的に直接雇用者と連絡を取ること。新聞の広告も役に立つ。インターネットにも多くの職業が載っている。労働局のハローワークでも探せる。雇用者が君に声をかけてくれることもあるけれど、積極的に興味がある分野へのアプローチが必要だ。出かけていって色々な人と話そう。自分のために！

<エントリー>

エントリーは、雇用者の興味をひくことが目的。

- ・志願理由を書いた手紙
- ・履歴書
- ・成績証明書 が必要なことが多い。

会社によって違うので確認しよう。

<就職面接>

1. 時間を守ろう。
2. 職種に合った服を選ぼう。
3. 事前に、その企業について調べておこう。仕事内容、従業員数、歴史等。たいていインターネットで情報が見られる。
4. よく聞かれる質問は・・・
 - どうしてこの仕事を選んだの？
 - 以前は何をしていたの？
 - この仕事で何ができますか？
 - どのくらいの給料がほしいですか？
5. 企業に質問しよう。君に興味があることをしめす。例えば・・・
 - 労働時間は？
 - 職務内容は？
 - キャリアアップはできますか？
6. 仕事をもらえなかった？電話して、何が悪かったのか聞こう。次回のエントリーに役立ちます。

このような情報が、高校入学前に、進路選択のアドバイスにおいて与えられていることは注目に値するだろう。高校卒業後、あるいは大学卒業後に社会に出ることが、できるだけリアルに提示されている。そしてそれを前提にして高校での教育を選ぶのだ。

しかし現実的には、生徒が実際に社会に出るのは高校3年間の後である。学校から社会への移行も、高校入学前の生徒にとっては切実なものではない。ここで、以上のような社会認識を生徒の現在の姿と結び付けるのが、7) 興味・関心テストと、8) 職業に関するワー

クである。

7) 興味・関心テストは、リストに載っている職業に、自分の関心に応じて点数をつけ、自分がどのような分野に興味があるかを自覚させるものである。ここでは、高校のプログラム区分に対応させながら、多くの職業が10グループに分類されている。このテストはごく大まかなもので、各分野の詳細な説明や適した性格等については、高校の各プログラム紹介で説明されている。

8) 生徒のワークとして、スウェーデン全国および各地域に関する問題が載っている。各地域の問題は、地域産業を支える大企業や、その地域の産業の特色などについて触れられている。セーデルマンランド地域では、ボルボのこと等が取り上げられている¹⁵。

＜全国共通問題＞

- ・郵便局はスウェーデン全国にあり、総計約35,000人の人が働いています。郵便局にはどのような仕事があるでしょう？配達人以外の例をあげましょう。
- ・公営薬局は全国に約900店舗あり、薬剤師やアドバイザーが働いています。彼らのおもな仕事内容は何でしょう？
- ・学校、病院、オフィス、城、家等、町には不動産がたくさんあります。スウェーデン中で、どれくらいの人不動産業界で働いているでしょう？

＜セーデルマンランド地域の問題＞

- ・ボルボ建設機械グループは、建設用機械を取り扱うボルボの販売会社です。
 - *スウェーデン内では、どこにあるでしょう。
 - *エスキルスティーナにあるボルボ技術センターの中心業務は何でしょう。

さらに、このような問題形式でなく、各生徒が関心を持った仕事について調べてみるワークも載っている。

＜職業を探そう！＞

興味のある職業を1つ選んで、その仕事について次のことを調べよう。

- 必要な教育
- 適している性格
- 仕事内容
- 労働条件／その職業の状況
- 企業の例
- キャリアアップへの道
- その職業の将来性

以上のように、自分の関心や住んでいる地域と関連づけながら、社会を自分のこととして捉える契機が与えられている。

4. おわりに

以上、高校入学システムを踏まえた上で、高校選択のガイダンスで用いられる進路選択ガイドを検討した。そこでは、以下の4点が明らかになった。

第一には、高校入学の際に、通学する学校よりも学習する専門分野の選択が強調されていることである。そのために、全国共通に17種類のプログラムが設定されていた。これは、高校が、あらゆる進路希望をもつ生徒を対象としながらも、教育内容の多様性を保障するためのシステムであった。同時に、生徒にとっては、社会に存在する多様な分野の全体像を把握する一助となっていた。そしてこれらの専門分野の選択に関しては、生徒に広く情報を与えた上で、できるだけ生徒の希望に沿うことが目指されていた。

第二には、進路選択ガイドにおいて、社会の現状がリアルに示されているということである。失業率や雇用情勢が数値を使って具体的に記されていた。このように、労働市場の現状やニーズと将来展望を生徒に対して明確に示すことで、生徒が自分の進路を決める際に考慮するよう促すのである。

第三に、国際的な視野や全国の情勢のみでなく、地域社会が大切にされていることである。生徒は近隣地域の高校に行くため、高校選択ガイドには必ず地域版が必要になる。しかし、検討したガイドブックでは、ワークとして地域に応じた問題を作る等、地域社会の状況に目を向けさせることにも重点を置いていた。「地域」は、選択肢となる学校が存在する範囲としてのみでなく、そこで仕事をし、生活をする社会としても重視されていたといえる。

第四に、生徒の自己認識として、心理的側面だけでなく、経済的側面や能力的側面、人の輪という側面も考慮させていることである。自分の経済面の話や就職活動の話によって具体的なイメージを持たせ、今の自分とつながることとして職業や社会を捉えさせていた。

これらの点から、スウェーデンにおける高校選択について、次のことが言える。すなわち、入学システムにおいても選択ガイドにおいても、社会の全体像、ニーズ、現状と展望を冷静なデータによって伝え、それに対してどのような形で参加してゆくか、そこでどのように生活してゆくかを生徒に考えさせることが重視されている。高校選択は、目指す職業を決定してそこ

へ向けて進むというよりもむしろ、変動性を知りつつ社会の全体像を捉え、その中から自分が専門とする分野を選びとって学習してゆく第一歩である。

また、その選択は、生徒に自分の進路を問うとともに、その選択が社会的にどのような影響をもたらすかを考えさせるものでもある。社会や労働市場のニーズは、個人の関心と対立するものとしてではなく、個人が進路を決める一要素として重要な位置を占めているのだ。

なお、本稿では、ガイドブックを検討したが、進路選択のガイドブックは作成者によって若干強調点が異なる。この強調点の違いは、実際の進路選択のガイダンス場面でどう影響するのだろうか。ガイドブックの利用方法と合わせて検討が必要である。また、基礎学校の最終成績を用いて行われる選抜が生徒間の競争を煽っているという報告や、両親の収入や教育による偏りを拡大しているという指摘がある¹⁶。成績による選抜が、どのように生徒の選択を左右しているのだろうか。これらの点を、今後の検討課題とする。

注

¹ Härnqvist, K., *Rekryteringen till teoretisk gymnasieutbildning. En jämförelse mellan sex födelsekohorter. UGU-projektet.*, 1999., Göteborg: Göteborgs Universitet. 滝充「スウェーデンにおける選抜・配分過程——高校進学にはたす基礎学校の機能——」『比較教育研究 第20号』1994年、pp.165-178。滝充「スウェーデンにおける選抜・配分機能（その2）——大学進学を中心に——」『宮崎大学教育学部紀要 教育科学』第78号、1995年、pp.81-91。

² Svensson, A., Består den sociala snedrekryteringen? Elevernas val av gymnasieprogram hösten 1998, *Pedagogisk Forskning i Sverige*, 2001, 6(3), pp.161-172.

³ Okuma-Nyström, M. K., Limited Freedom of Choice: Cases of High Schools in Stockholm and Tokyo, *Education and Society*, 2005, 23(1), pp.57-73.

⁴ 移民の子弟に対しては、「第二外国語としてのスウェーデン語」という教科が代用される。

⁵ Skollag(1985:1100) 第5章5節。基礎学校では、第8学年と第9学年で、各教科に対して、全国共通の評価規準

に基づいて「優」「良」「可」の3段階で成績がつけられる。「可」の基準に満たない場合、成績はつけられない。ここで言う「合格」は、この3段階いずれかの成績を受けることである。

⁶ Skolverket, *Barn, elever och personal-Riksnivå*, 2006, p.153.

⁷ 約24.4%の生徒が居住しているコミュニーの外にある高校に通っている（Skolverket, 2006, p.153.）。

⁸ 高校進学ウェブサイト：ストックホルムレーン <http://www.gymnasieintagning.se/>、ヨーテボリ地域 <http://www.indranet.se/>

⁹ Stockholmsstad Utbildningsförvaltningens intagningsenhet/ informationsenhet *PROGRAMGUIDEN Valet till gymnasieskolan inför höstterminen 2005*. Stockholm, 2004. p.14.

¹⁰ Skolverket, 2006, p.112, p.179.

¹¹ Lovén, A. *Kvalet inför valet. -Om elevers förväntningar och möten med vägledare i grundskolan, lärarhögskolan i Malmö*. 2000. p.56.

¹² Nilsson, O., *Hur ungdomar tänker då de väljer gymnasieutbildning: Motiv och information som styr deras val*, Lärarhögskolan i Stockholm, 2001, p.15.

¹³ <http://www.utbildningsinfo.se/> [2008/02/20確認]

¹⁴ Information Arbetsmarknad AB ウェブサイトより http://www.framtidsvalet.se/index.php/media/pop_up/movies_on_other_sites/omoss07 [2008-02-20確認]

¹⁵ <http://www.framtidsvalet.se/index.php/content/download/5526/87444/file/sodermanland.pdf> [2008-04-12確認]

¹⁶ Cecilia Bodström, Segregationen ökar i gymnasiet, *Dagens Nyheter*, 2002/05/28.